

# 学校だより



平成29年10月31日

横浜市立二谷小学校  
校長 石川 秀子

## 読書は心の糧

副校長 齋藤忠雄

10月10日（火）、後期がスタートすると同時に、13日（金）までの間、読書週間がありました。図書委員会の子も達を中心となって図書集会でお勧めの本を紹介したり、図書室で本を借りた子にしおりや本2冊借し出し券をプレゼントしたりと、全校のみんなが少しでも本に親しんでくれるように工夫した活動を展開しました。また、その期間はもちろん日々の学校生活の中でも、学校司書の方岡先生や図書ボランティアの方々が図書室の環境整備を進めてくれたり、発足から10年以上の歴史をもつ「花ねむの会」の皆さんが絵本の世界の楽しさを教えてくれたりしています。このように本校の子も達は、常に恵まれた読書環境の中にいます。

私は小さい頃は、あまり本を読まない、漫画ばかり読む少年でした。しかし、中学生になったある日、優等生だった隣の席の女の子が「赤毛のアン」という小説を貸してくれました。始めは「女の子が主人公の小説なんて読めるか!」と思っていたのですが、読み始めたら止まりません。おもしろくてシリーズ化されている本を全て読んでしまいました。それから私は本が好きになりました。

アメリカの教育者ドナリン・ミラーさんが「読書は頭と心の冒険」と言っています。冒険は自由です。心がワクワクしたらそれがその人にとっての最良の本です。名作や推薦図書でなくてもかまわない。つまらないと思ったら途中でやめてもよい。その代わりに、毎日数行でもいいからくり返し読んでいけば、きっと心を揺さぶられる1冊に出会い、その本が心の養分となってくれると思います。

本校では、今年度も国語を重点研究教科の柱として日々、授業研究を進めています。授業の中でさまざまな文章にふれ、音読劇で表現したり、読書会を開いたり、学年に適した言語活動を通して読みを深める力を高め、その力を日常生活の様々な場面で活用していく子どもの姿を目指しています。12月1日（金）には、横浜市を中心にほかの小学校の先生方を招いて研究発表会も開きます。

このような学習の中で、または日々の生活の中で、子ども達が一冊でも多くの本と出会い、読書が生きていく上での心の糧になることを願っています。